

史跡横須賀城跡 史跡等活用特別事業報告書

本丸前・天守台等復原整備事業
(史跡横須賀城跡 X・XI・XII・XIII・XIV)

1999

静岡県大須賀町教育委員会

史跡横須賀城跡 史跡等活用特別事業報告書

本丸前・天守台等復原整備事業
(史跡横須賀城跡 X・XI・XII・XIII・XIV)

1999

静岡県大須賀町教育委員会

カラー写真図版1

横須賀城跡全景（南より）



カラー写真図版 2

横須賀城跡全景（西より）





本丸南東石垣及び玉砂利敷遺構平面表示状況



櫓門跡及び櫓門前平坦面整備状況

カラー写真図版 5



天守台整備状況

カラー写真図版 6



野外模型設置状況

カラー写真図版 7



天守台発掘調査状況

カラー写真図版 8



発掘調査出土鰯瓦

カラー写真図版 9



「遠州横須賀城図」その1（国立国会図書館蔵）



カラー写真図版 11

横須賀城下古図 - 1 大須賀町教育委員会所蔵 (太田すみ氏寄贈)



序 文

大須賀町は人口1万2千人余の小さな町ですが、気候は温暖で緑豊かな小笠山と雄大な太平洋に面した素晴らしい町です。この恵まれた環境に深みを与えているのが、城下町が育んだ歴史と伝統文化です。大須賀町には横須賀扇や三熊野神社大祭、その他数々の史跡など誇れる工芸品や歴史遺産が多く残っています。このように書くと、ただ古いものが残る町のように思われるかも知れませんが、ありがたいことに、今でもこのような遺産と伝統文化をゆりかごに、新しい名物や催しがいくつも生まれ育ちつつあります。古い伝統と文化が、流行にとらわれない地に足をつけ落ちついた質のいい、新しい息吹発想を与え続けてくれているのだと思います。このような伝統文化は横須賀城を中心とした城下町という環境に、様々な人と文化が入り交じり、三百年という時間をかけてつくられてきました。

町の成立から現在まで大きな影響を与え続けてきた横須賀城は、当町にとってかけがえのない財産であり、町民のよりどころです。しかし、明治維新で魔城となった後、建物や石垣を失い、町並みが形成され、更に高度経済成長期に堀跡が埋め立てられて、城としての景観を完全に失ってしまいました。このような状況を憂いた多くの人達の努力により、昭和56年城跡は国史跡に指定され以来保存活用の諸事業が図られてきました。特に平成7年度から始まった『史跡等活用特別事業』いわゆる『ふるさと歴史の広場事業』では、天守をふくむ本丸一帯の整備が進み特に本丸前の大石垣は他では見られない玉石積みの高石垣で、見た人に驚きを与える独特的の景観をつくっています。

今回の事業により、城跡は保存と共に活用面においても大きく前進しました。これにより町民の城跡への関心愛着心が更に深まり、町の活性化、町づくりの大きな糧となると確信します。

最後に、この事業に際し、ご指導ご協力いただきました城跡整備委員の先生方並びに関係諸機関その他多くの関係者のみなさま方に對し、深く感謝申し上げます。

平成11年3月

静岡県小笠郡大須賀町
町長 伊藤徳之

例 言

1. 本書は静岡県小笠郡大須賀町に所在する史跡横須賀城跡の平成7年度から10年度におこなわれた史跡横須賀城跡史跡等活用特別事業の報告書である。
2. この事業は国県の補助金を受け、横須賀城跡整備委員会の斎藤忠委員（大正大学名誉教授）高瀬要一委員（奈良国立文化財研究所）服部英雄委員（九州大学大学院助教授・平成8年度から）小和田哲男委員（静岡大学教授・平成7年度まで）及び、文化庁、県文化課の指導を受け大須賀町教育委員会が実施した。主な事業は以下のとおりである。

発掘調査 大須賀町教育委員会の木佐森道弘が担当し、調査に関する事務は大須賀町教育委員会事務局があつた。

復原整備工事 大須賀町が、設計監理を（財）文化財建造物保存技術協会に業務委託し、工事施工は業者の請負工事として、松井建設（株）が実施した。

模型制作設置工事 大須賀町が、業者の請負工事として、岩尾磁器工業（株）が実施した。

3. 本書の執筆分担は以下のとおりである。

第1章・第3章・第4章を木佐森が執筆し、第2章を（財）文化財建造物保存技術協会が執筆し、斎藤が全体を総括した。付編の横須賀城出土瓦から見た豊臣政権の城郭政策は織豊期城郭研究会の加藤理文氏に寄稿をお願いした。

4. 本書の編集は木佐森がおこなった。

5. 遺構図のうち石垣の平面図と立面図の一部は（株）フジヤマに委託して作成した写真測量図を基にして作成した。

6. 遺物実測図のうち鰐瓦等の実測は（有）白沙堂に業務委託して作成した。また、付載した古期瓦の考察中の拓本と実測図は織豊期城郭研究会の加藤理文氏が作成した。

7. 鰐瓦の写真撮影は楠華堂内田真紀子氏に依頼して撮影した。また、この撮影にあたって（財）静岡県埋蔵文化財研究所の写場と設備を使用させていただき、大変お世話になった。記してお礼申し上げる。

8. 発掘調査及び整備に係わる資料は大須賀町教育委員会が保管している。

9. 本書の口絵に掲載した「遠州横須賀惣絵図」は東京在住の個人所蔵の絵図で、本書掲載にあたり快く承諾をいただいた。

10. 調査・整備ならびに本書の執筆にあたり、下記の方々のご教示を得た。記して感謝の意を表したい。（敬称略）

桑原 武 泉 敬常 塚本和弘 松井一明 加藤理文 岡田 昇 木戸雅寿 中井 均
小竹森直子 戸塚和美 伊藤寿夫 山本宏司 鈴木公司 名倉省三 浅山精一 篠原修二
梅川光隆 中島末明 柴田 稔 大村徳郎 真鍋建男 奥村信一 幅崎文雄 松下 正
市川 恒 森下春美 柴田 瞳 鬼澤勝人 泉 敬秀

目 次

序文

例言

第1章 事業の概要

第1節 横須賀城跡の概要	2
地理的景観	2
縄張り	2
歴代城主と城の沿革	3
第2節 土地公有化事業	4
年度別公有化状況	4
今後の公有化計画	4
第3節 整備事業	4
事業費	5
第4節 発掘調査	6
発掘調査参加者	7
第5節 整備委員会	8

第2章 復原整備工事

第1節 復原の考察	9
第1項 復原調査の概要	9
第2項 天守台	11
第3項 本丸	16
第4項 三日月池から天守東斜面下の平坦面	18
第5項 横門跡平坦面	20
第6項 横門前平坦面	22
第7項 玉砂利敷遺構	25
第8項 活用にともなう整備	25
第2節 復原整備の概要	27
第1項 復原設計の基本方針	27
第2項 天守台	28
第3項 本丸	31
第4項 三日月池から天守東斜面下の平坦面	36
第5項 横門跡平坦面	37
第6項 横門前平坦面	39
第7項 玉砂利敷遺構	39
第8項 活用にともなう整備	40

第3節 実施工事	43
第1項 標準仕様	43
第4節 工事関係者	52
第5節 実施工工程表	53
 第3章 野外模型制作設置工事	55
第1節 模型材質の選定	55
第2節 模型制作について	55
第3節 壳体について	57
 第4章 発掘調査	58
第1節 天守台跡	58
第2節 三日月池北側中段部分	74
第3節 三日月池東側上段中段下段部分	78
第4節 天守台東下平坦面	81
第5節 天守台北斜面下部分	86
第6節 遺物について	92
 第5章 まとめ	92
 付編 横須賀城出土瓦から見た豊臣政権の城郭政策	94

挿 図 目 次

第1図 横須賀城跡位置図	1
第2図 1-1 西側北端の遺構	13
第3図 1-2 天守台より西側に残る土塁	13
第4図 1-3 南西隅部分の遺構	13
第5図 1-4 南東部分の遺構	13
第6図 1-5 碓石(ア)上面に残る痕跡	13
第7図 1-6 碓石(イ)上面に残る痕跡	13
第8図 1-7 天守台遺構図と変遷図	14
第9図 1-8 東西方向に根石列が残る	16
第10図 1-9 東南隅部から西側面をみる	16
第11図 1-10 三日月池中段区域	19
第12図 1-11 門跡付近から出土した碓石	19
第13図 1-12 「遠州横須賀城図」その2の部分	19
第14図 1-14 構門跡平坦面	23
第15図 1-15 構門跡平坦面遺構全景	23

第 16 図	1-16 本丸下石垣・西北隅出土根石列	23
第 17 図	1-17 本丸下石垣・東北隅出土根石列	23
第 18 図	1-18 構門前石垣	23
第 19 図	1-19 構門下石垣排水口跡	23
第 20 図	1-20 構門跡・構門前遺構図と復原図	24
第 21 図	2-1 天守台復原整備図	32
第 22 図	2-2 簡易舗装仕上げ試作	32
第 23 図	2-3 簡易舗装仕上げ試作	32
第 24 図	2-4 ポーリング柱状図	34
第 25 図	2-5 石垣補強工事図	34
第 26 図	2-6 池状遺構平面図	38
第 27 図	2-7 構門跡本丸下石垣西側上り口工事	38
第 28 図	2-8 玉砂利敷遺構平面表示	41
第 29 図	2-9 排水計画図	42
第 30 図	立体模型平面図・立面図	57
第 31 図	発掘区設定位置図	58
第 32 図	発掘区遺構全体図	60・61
第 33 図	天守台遺構図	62・63
第 34 図	青色粘土帶土層図	66
第 35 図	天守台西北隅石列と石組み瓦溜まり平面図	68
第 36 図	天守台南東隅入口状部分溝状遺構等平面図	69
第 37 図	天守台西側土堀石垣瓦廃棄土層図	72
第 38 図	玉砂利敷遺構平面図	75
第 39 図	西側隅石垣平面図立面図	77
第 40 図	炭化物廃棄土坑平面図土層図	79
第 41 図	石列掘石遺構群平面図	80
第 42 図	天守台東下平坦面南半遺構図	82・83
第 43 図	池状不明遺構底部砾出土状態平面図	84
第 44 図	溝状遺構実測図	85
第 45 図	天守台北斜面下西トレンドチ土層図	86
第 46 図	瓦実測図(上面図)	88
第 47 図	瓦実測図(正面背面)	89
第 48 図	瓦実測図(左右両側面)	90・91
付編分		
付第 1 図	横須賀城跡出土瓦実測図(1)	96
付第 2 図	横須賀城跡出土瓦実測図(2)	97
付第 3 図	横須賀城跡出土瓦実測図(3)	99
付第 4 図	横須賀城跡出土瓦実測図(4)	100
付第 5 図	横須賀城跡出土瓦実測図(5)	102

付第 6 図	横須賀城跡出土瓦実測図 (6)	103
付第 7 図	横須賀城跡出土瓦実測図 (7)	105
付第 8 図	横須賀城跡出土瓦実測図 (8)	106
付第 9 図	宝珠紋の簡略化・様式化	108
付第 10 図	豊臣時代の地域想定図及び瓦出土地点一覧	110
付第 11 図	県内出土豊臣時代軒丸瓦相関図	114・115
付第 12 図	県内出土豊臣時代軒平瓦相関図	116・117

挿 表 目 次

第 1 表	実施工程表 (本丸前)	53
第 2 表	実施工程表 (天守台等)	54

写 真 図 版 目 次

カラー写真図版		
カラー写真図版 1	横須賀城跡全景 (南より)	
カラー写真図版 2	横須賀城跡全景 (西より)	
カラー写真図版 3	本丸南東石垣及び玉砂利敷遺構平面表示状況	
カラー写真図版 4	櫓門跡及び櫓門前平坦面整備状況	
カラー写真図版 5	天守台整備状況	
カラー写真図版 6	野外模型設置状況	
カラー写真図版 7	天守台発掘調査状況	
カラー写真図版 8	発掘調査出土瓦	
カラー写真図版 9	「遠州横須賀城図」その 1 (国立国会図書館蔵)	
カラー写真図版 10	遠州横須賀惣絵図 (個人蔵)	
カラー写真図版 11	横須賀城下図-1 大須賀町教育委員会所蔵 (太田すみ氏寄贈)	

復原整備工事写真

工事写真 1 天守台	1 施工前全景	2 丁張り作業状況	3 天守台廻り石垣・石積み工事
工事写真 2 天守台	4 平面表示工事	5 平面表示工事	6 平面表示工事
工事写真 3 天守台	7 平面表示工事	8 平面表示工事	9 平面表示工事
工事写真 4 天守台	10 階段ステップ工事	11 生垣工事	12 復原整備完成
工事写真 5 本丸南東石垣	13 施工前	14 法面清掃・丁張り状況	15 石垣補強工事
工事写真 6 本丸南東石垣	16 石垣補強工事	17 石垣補強工事	18 石垣補強工事
工事写真 7 本丸南東石垣	19 石垣工事	20 石垣工事	21 石垣補強工事
工事写真 8 本丸南東石垣	22 石垣工事	23 石垣工事	24 復原整備完成
工事写真 9 天守台東斜面北斜面	25 施工前全景	26 東斜面施工前	27 東斜面土坡工事

工事写真 10 天守台東斜面 28 土坡工事 29 土坡工事 30 土坡工事
工事写真 11 天守台東斜面 31 土坡工事 32 土坡工事 33 土坡工事完成
工事写真 12 天守台北斜面 34 施工前 35 土坡工事 36 整備完成
工事写真 13 三日月池北東中段 37 施工前 38 施工前 39 整備完成
工事写真 14 三日月池 40 池廻り石垣施工前 41 池廻り石垣・石垣法面工事 42 整備完成
工事写真 15 本丸東斜面下平坦面 43 施工前 44 盛土仮設工事 45 復原整備完成
工事写真 16 池状造構 46 施工前 47 平面表示工事 48 平面表示工事復原整備完成
工事写真 17 横門跡平坦面本丸下石垣 49 施工前 50 石垣工事 51 石垣工事
工事写真 18 横門跡平坦面本丸下石垣 52 排水工事 53 排水工事 54 石垣工事
工事写真 19 横門跡平坦面本丸下石垣西側登り口 55 補強工事 56 登り口工事 57 叩き工事
工事写真 20 横門跡平坦面本丸下 58 盛土工事 59 芝張り工事 60 本丸下石垣復原整備完成
工事写真 21 横門跡平坦面本丸下石垣東側 61 登り口施工前 62 石垣工事 63 石垣工事
工事写真 22 横門跡平坦面本丸下石垣東側登り口 64 盛土工事 65 生け垣工事 66 周囲復原整備完成
工事写真 23 西の丸台地東斜面 67 土坡工事施工前 68 土坡工事 69 土坡工事
工事写真 24 横門前平坦面横門前石垣 70 施工前 71 石垣工事 72 石垣工事
工事写真 25 横門前平坦面横門前石垣 73 石垣工事 74 登り口工事 75 登り口工事
工事写真 26 横門前平坦面横門前石垣 76 石垣工事 77 石垣工事 78 整備完成
工事写真 27 三日月池北平坦面玉砂利敷造構 79 平面表示工事 80 平面表示工事
81 平面表示工事整備完成
工事写真 28 活用整備 82 本丸南東部登り口石垣整備上の石垣積み
83 三日月池北東中段西平坦面と遊歩道境の整備石垣積み施工前
84 三日月池北東中段西平坦面と遊歩道境の整備石垣積み周辺整備完成
工事写真 29 活用整備本丸南東部登り口 85 施工前 86 登り口工事 87 木柵工事
工事写真 30 活用整備暗渠排水工事 88 集中呉橋据え付け作業 89 排水管布設工事 90 砂利敷き詰作業

野外模型制作設置工事写真

工事写真 1 1 素材粘土板切断 2 等高線彫刻 3 等高線彫刻
工事写真 2 1 等高線を削り斜面に仕上げる 2 塊の仕上げ 3 平坦部の彫刻
工事写真 3 1 石垣の仕上げ 2 作成完成 3 本丸周辺
工事写真 4 1 各部分のチェック、修正中間検査 2 色打合せ 3 建物原型の確認
工事写真 5 1 作成完了 2 乾燥 3 絵付け(二の丸)
工事写真 6 1 絵付け(石垣) 2 絵付け(本丸、西の丸) 3 絵付け(塀の屋根)
工事写真 7 1 文字転写 2 絵付け工程完了 3 全体に釉薬を掛ける
工事写真 8 1 窯積め 2 本窯焼成 3 焼成完了
工事写真 9 1 焼成完了 2 説明文 3 完成並べ
工事写真 10 1 焼成完了検査 2 建物の原型制作状況 3 建物の原型天守(鉢込型、原型、作成)
工事写真 11 1 横門(鉢込型、原型、作成) 2 乾燥 3 素焼き窯焼成
工事写真 12 1 本窯絵付け 2 絵付け完了 3 建物焼成完了
工事写真 13 1 建物焼成完了 2 模型設置状況 3 模型設置状況

発掘調査写真図版

- 写真図版 1 1 天守台発掘調査状況空中写真 2 天守台遠景 3 天守台西半
- 写真図版 2 1 天守台東半 2 天守台礎石建物跡 3 天守台礎石建物と土壘痕跡
- 写真図版 3 1 天守台礎石および柱痕跡 2 天守台礎石抜き取り痕検出状態
3 天守台東側砂利敷整地層
- 写真図版 4 1 天守台東側砂利敷整地層 2 天守台東側砂利敷状況
3 天守台西側石垣と石列石組遺構
- 写真図版 5 1 天守台西北隅石列石組遺構 2 天守台西北隅石列石組遺構
3 天守台南東隅入口状部分
- 写真図版 6 1 天守台南東隅入口状部分 2 天守台南側南北石垣 3 天守台南側南北石垣
- 写真図版 7 1 天守台南側南北石垣と廐棄瓦検出状況 2 天守台南側南北石垣前蟻瓦尾びれ部分出土
状況 3 天守台南側南北石垣前蟻瓦尾びれ部分出土状況
- 写真図版 8 1 天守台西側石垣 2 天守台西側石垣石積状況
3 天守台西側土壘前石垣と蟻瓦出土状況
- 写真図版 9 1 天守台西側土壘前石垣と蟻瓦出土状況 2 天守台西側土壘前石垣と蟻瓦出土状況
3 三日月池北上平坦面東半発掘調査状況
- 写真図版 10 1 道状遺構直上遺物出土状況 2 道状遺構 3 道状遺構
- 写真図版 11 1 三日月池北上平坦面西半発掘状況 2 三日月池北上平坦面北側石垣根石検出状況
3 三日月池北中段玉砂利敷遺構全景
- 写真図版 12 1 三日月池北中段玉砂利敷遺構全景 2 玉砂利敷遺構全景 3 玉砂利敷遺構中央部分
- 写真図版 13 1 玉砂利敷遺構北東コーナー 2 玉砂利敷遺構北東コーナー 3 玉砂利敷遺構東側縁石列
と玉砂利敷状況
- 写真図版 14 1 玉砂利敷遺構北側部分縁石 2 玉砂利敷遺構検出作業 3 玉砂利敷遺構北側石垣根石東
隅部分
- 写真図版 15 1 玉砂利敷遺構北側石垣根石東隅部分 2 玉砂利敷遺構北側石垣根石西隅部分 3 玉砂利
敷遺構北側石垣根石西隅部分石積み状態
- 写真図版 16 1 玉砂利敷遺構北側石垣西隅部分石積み状態 2 三日月池東側発掘状況全景 3 三日月池
東側西半発掘状況
- 写真図版 17 1 三日月池東側東半発掘状況 2 三日月池東側上段炭化物廐棄土坑 3 炭化物廐棄土坑
- 写真図版 18 1 三日月池東側上段石列遺構 2 三日月池東側上段石列遺構 3 三日月池東側上段石列遺構
- 写真図版 19 1 三日月池東側上段瓦転用排水遺構 2 三日月池東側中段門跡推定地部分 3 三日月池東
側中段瓦出土状態
- 写真図版 20 1 三日月池東側中段門跡推定地礎石検出状態 2 天守台東下平坦面全景 3 天守台東下平
坦面池状遺構
- 写真図版 21 1 池状遺構 2 池状遺構底部礎検出状態 3 池状遺構礎検出状態
- 写真図版 22 1 天守台東下平坦面鉄冶遺構と推定される炭化物集中部分と方形整地層分布部分 2 天
守台東下平坦面北端部 3 天守台北斜面下西トレンチ瓦出土状態
- 写真図版 23 出土遺物 蟻瓦頭部
- 写真図版 24 出土遺物 蟻瓦頭部

- 写真図版 25 出土遺物 鱗瓦頭部
- 写真図版 26 出土遺物 鱗瓦尾びれ部分
- 写真図版 27 出土遺物
- 写真図版 28 出土遺物 付編分
- 写真図版 29 出土遺物 付編分
- 写真図版 30 出土遺物 付編分
- 写真図版 31 出土遺物 付編分



- | | |
|-----------|---------|
| 1 横須賀城跡 | 5 久能城跡 |
| 2 横須賀湊推定地 | 6 馬伏塚城跡 |
| 3 高天神城跡 | 7 福田港 |
| 4 掛川城跡 | |

第1図 横須賀城跡位置図

第1章 事業の概要

第1節 横須賀城跡の概要

国史跡指定年月日 昭和56年5月8日

城跡（指定地）面積 168,419.64 m²

地理的景観

横須賀城は静岡県西部に広がる遠州平野の東端に位置する。遠州平野の低地から東を望むと、中央が高く南北にゆるやかに下がる山稜が見える。この山はその笠を伏せたような形から小笠山と呼ばれていて、小笠郡の名前の由来にもなっている。初期段階の横須賀城の主郭部分と考えられる松尾山と本丸は、この小笠山丘陵の南西部の尾根先端部に山城として築かれた。その後、近世中期までに、尾根先端部から西側の遠州平野に細長く突き出した砂嘴上に平城部分が拡張付与されて、現在残る横須賀城が完成したと考えられる。小笠山は洪積世の大井川の堆積物が隆起してできたと考えられていて、城内のあちらこちらで円礫や砂利が固結した小笠山礫層の露頭がみられる。

古代から近世中期まで、小笠山南西部に接する沖積平野には、海が深く入り込み入江を形づくっていた。横須賀城が築かれた尾根と、そこから西へと長く延びる砂嘴は、三方が入江と沼や深田に囲まれた天然の要害の地であった。また、この入江には横須賀湊があった。横須賀湊の利権を独占していた沖之須村の寛文7年（1671）の村鑑帳によると、沖之須村の管理する船として、280石積みの御用船が3艘、商人船が300石船3艘、260石船7艘があると記録されていて、城内にも小舟が入ったと考えられる。遠州平野の東側を衝立のように塞ぐ小笠山を挟んで、北側に立地する掛川城が陸の大動脈東海道の押さえであったのに対し、横須賀城は、小笠山の南をとおる浜道の押さえであるとともに、海上交通の押さえの城であったと考えられる。その後、横須賀湊は入江に流れ込む川筋の変化により次第に使用困難になり、ついに宝永4年（1676）の大地震による土地の隆起により完全に役目を終えた。地震後は7.5kmほど西の福田湊まで運河がつくられ物資の運搬がなされたが、目の前の湊を失ったことは、横須賀城と城下町にとって大きな痛手であったと考えられる。

縄張り

城は小笠山の尾根先端部とそこから西にのびる砂嘴を利用してつくられている。尾根を利用してつくられた松尾山と本丸が初期段階の横須賀城の範囲と考えられている。その後、11代城主の時代に東側に三の丸が、12代城主の時代に西側に二の丸が拡張整備されたといわれている。初期段階の城を囲む堀は拡張工事の中で埋め立てられて、本丸東下の牛池、本丸南下の三日月池、本丸西下の二の丸池として痕跡をとどめた。これらの池は本丸と二の丸、本丸と三の丸のそれぞれの境界部分に位置し、どちらとも外堀が大きく入り込み、池との間に狭隘な部分が形づくられている。さらに堀と門により区画されており、完成した段階の横須賀城においても本丸を守る重要な防衛ラインであったことがわかる。城の南側には城前の入江と外堀を区切る形で中土居とよばれる土手が築かれ、横須賀城下町と東海道の袋井宿をつなぐ街道となっていた。

城の最東端には松尾山がある。頂上部には平坦面があって、倉庫跡と推定される方形の平坦面や池跡がある。外周には土塁跡や帯郭状の平坦面が残り、虎口状の入口もみられる。松尾山は築城当初の

主要な郭であったと考えられている。標高は26mで横須賀城で最も高い位置にある。この郭の東側には小笠山の主峰から続く尾根筋を分断する大堀切がある。この堀切は上端部で幅が30mから40mあり、深さも松尾山側の現状で15mもある大きなもので、空堀となって南と北の水堀とつながって横須賀城の外周を囲む外堀を形づくっている。松尾山の西下には標高14mの北の丸とよばれる広い平坦面があり御殿や倉庫があったと伝わる。

北の丸の西側に、南に口を開くコの字形の山がある。この一帯が本丸で、頂上部には広い平坦面があって大きな本丸の郭をかたちづくる。本丸郭は大きく東西に分けられる。西側は西の丸とよばれ、東側は本丸とよばれており北端には天守台がある。天守台の北側外周には土塁があり、松尾山に次ぐ標高23mをはかる。本丸の北側は人が容易に登れない急斜面になっている。本丸の南、西、東に本丸に上がる通路があり、要所に平坦面がみられ、防衛の郭と考えられる。特に主経路となる中央（南）入口は、コの字形をした本丸の南に開く谷状部分にあって、大きく二段に平坦面をつくり、2か所の櫓門と堀、石垣、石塁により区切られ、両側のコの字状に張り出した部分に郭状平坦面がつくられ守りが固められている。本丸の北側下の平坦面には米倉と考えられる倉庫群があった。

本丸の東側には三の丸があり藩庁があった。三の丸の南側には2つある大手の1つの東大手があった。三の丸の東南隅の最も城下町に近い位置には太鼓櫓と呼ばれる櫓があった。

本丸の西側には広大な二の丸が広がる。標高は概ね5mほどである。二の丸は堀や門により大きく三つに分けられ、最も東に城主が住む二の丸御殿が、中央には武器蔵と想定される倉庫群、最も西には馬屋があり、この部分の南側には西大手が、北側には不開門と呼ばれる櫓手門があった。西大手には西櫓が付属して守りを固めていた。

歴代城主と城の沿革

戦国時代の末期、この地方は西の徳川勢力と東の武田勢力との境界地帯となって攻防が続いていた。天正2年（1574）遠江国の要である高天神城が徳川方から武田方の手に落ちた。天正8年（1580）徳川家康は家臣の大須賀康高に命じ、高天神城を奪還する拠点として横須賀城を築かせ、康高が初代城主となった。天正9年（1581）高天神城は落城とともに廃城となり、横須賀城が遠江国南部地域を治める拠点として位置づけられた。天正18年（1590）豊臣秀吉による小田原攻め後の徳川家康の関東移封に伴い、二代城主大須賀忠政も上総国久留里に移封となった。西の豊臣からみて徳川に対する最前衛地域となる駿河遠江には豊臣系の大名が配置され、横須賀城には渡瀬繁詮が入った。渡瀬が有名な秀次事件に連座して改易となった後、渡瀬の縁者である有馬豊氏が豊臣秀吉に召しだされ4代城主となった。慶長6年（1601）前年の禍が原の戦い後の大名の再配置で、横須賀城には二代城主であった松平（大須賀）忠政が久留里から戻り5代城主となった。その後近世を通じて石高2万5千石から5万5千石の譜代大名（松平（能見）氏、井上氏、本多氏、西尾氏）の居城となり、江戸幕府の老中を勤めた城主もあった。築城から明治維新で廃城となるまで288年間20代の城主を数えた。

横須賀城と城下町は遠江国南部の中心として栄えたが、明治元年（1868）20代城主西尾忠篤は明治維新的激動のなか、安房国花房（現千葉県鴨川市）に移され、横須賀藩領は静岡藩に含まれる事となった。その後、明治2年8月には廃城となり、さらに明治6年には城内の土地、建物、石垣、樹木まで民間に払い下げられて、しだいに町並みや田畠が形成され、ついには堀も埋め立てられて、城郭としての姿を完全に失った。そんななか昭和46年本丸一帯を造成して住宅団地をつくる計画が持ち上がったことから、城跡消滅の危機に住民から保存の声が上がり、昭和56年5月8日付けで国の史跡に指定された。

第2節 土地公有化事業

横須賀城跡は昭和56年の国史跡の指定以来、整備事業が進められてきた。
指定の翌年の昭和57年度から土地公有化が開始され現在も進められている。

土地公有化状況は現在以下のようである。(平成10年4月1日現在)

史跡指定地面積	168,419.64	m ²
公有化済み地（町）	37,894.64	筆
指定以前公有化地（町）	4,456.86	筆

年度別公有化状況

昭和57年度	8,372	m ²	20筆
昭和58年度	9,853	m ²	10筆
昭和59年度	6,936.32	m ²	18筆
昭和60年度	4,926.41	m ²	17筆
昭和61年度	2,926	m ²	10筆
昭和62年度	1,096.22	m ²	2筆
昭和63年度	3,181.08	m ²	13筆
平成6年度	368	m ²	3筆
平成8年度	235.61	m ²	2筆
平成10年度	1,823	m ²	4筆

今後の公有化計画

本丸跡の内、昭和58年度に策定された横須賀城跡保存管理計画で、最優先の買い上げと整備を示してある第一次公有化地域内に残る松尾屋公民館等5筆の買い上げを進める。また、平成10年度から二の丸跡の内、町立西部幼稚園西側のA地区の買い上げを開始した。

第3節 整備事業

昭和61年度から始まった環境整備事業は事前の発掘調査により遺構をとらえ、その成果に基づいた整備をおこなっている。整備は本丸の西側下部分から始まり、本丸上の平坦面の整備に進んだ、原則として遺構としてとらえる事のできたものを整備している。石垣等露出表示できる一部の遺構を除き、遺構は地下に埋め戻して保護保存をはかり、その直上に在来工法を主体にしながら、一部最新工法を取り入れてより遺構に近い表示をしている。

郭の外周を廻り区画を区切る堀跡や門跡については、遺構としてはとらえる事ができなかったものの、城の景観を表すため必要な整備である事から、いつでも変更可能で公園の環境にも影響のない植物の植栽により表現している。その位置については、当時描かれた絵図や現在の地形から推定している。植栽による遺構表現の具体的な方法は、堀はサザンカの列植による生垣により表示した。門跡はイヌツゲの立方形の刈り込みにより表示している。また、遺構表示や復原をしない部分の全体には芝

を張り、表土の流出を防ぐとともに、芝生広場として子供の遊び場などとして活用されている。

以上のような整備が昭和61年度から平成元年度まで進められてきた。その後、天守台、本丸前一帯の発掘調査が進み、石垣、天守建物跡等の遺構が検出され、高石垣等の遺構復原整備が検討された。これらの整備はそれまでの整備とは事業規模が格段に大きくなるため、平成6年度の石垣復原は史跡の一般保存修理事業でおこなったものの、その翌年の平成7年度からは史跡等活用特別事業により石垣等の大規模な整備をおこなった。

今まで本丸付近には石垣が全く見られず、見学者から「ここは石垣もなくただの山みたい」などと言われるぐらいであったが、石垣が復原された事から城跡の雰囲気ある公園となってきた。

なお、横須賀城の石垣に使われている石は他の城郭のように角礫や切石を使用せず、地元の小笠山礫層中にみられた地元で死に石と呼ぶ砂岩質の玉石（川原石・丸礫）を使っている。町内の古い民家では建物の土台石や石垣、庭石などにこの玉石を使っている事から、石垣復原が計画され始めた平成3年頃から、チラシや町広報で地元産玉石の寄贈のお願いを呼びかけた。この呼びかけにより相当数の地元産の玉石を集めることができた。石の寄贈のお願いに際しては、大きさも限定して呼びかけはしたが、なかなか大きな石は集まらなかった。高い石垣に使用する石はある程度以上の大きさと、石垣の重量に耐える事が必要であるが、残念ながら寄贈された石でこれに合致する石は少なかったが、石垣に使用出来ないものも園路の縁石等に極力使用した。

史跡等活用特別事業に伴う遺構復原整備事業の具体的な方法等についてはこの整備の設計監理をおこなった（財）文化財建造物保存技術協会により第2章で述べる。

横須賀城跡の環境整備事業では、遺構復原の他に各遺構の説明板や標柱、トイレ等の設置、花木高木等の植栽など、見学者来訪者の利便と憩いの場を提供するための整備を国や県の補助事業、町単独事業でおこなってきた。平成2年度には、本丸西側帶郭状部分の門跡に、発掘遺構や遺物の出土状況等のカラー写真、遺構復原の方法のイラスト図解等を表示した陶板の説明板を設置している。

平成10年度には横須賀城跡の全体をより理解してもらうため、陶製の立体野外模型を本丸平坦面の東端部分に設置した。

事業費

この期間および当該地の整備に関わる平成5年度からの整備事業、発掘調査事業に要した事業費は以下のとおりである。

平成5年度	国庫補助事業名	史跡横須賀城跡保存修理事業
	総事業費	10,504,339円
	内訳	
	発掘調査	2,212,839円
	本丸前整備本設計書作成	7,179,100円
	遺構写真測量業務	1,112,400円
平成6年度	国庫補助事業名	史跡横須賀城跡保存修理事業
	総事業費	22,060,420円
	内訳	
	本丸前復原整備工事	19,999,510円
	遺構写真測量業務	2,039,400円
	その他	21,510円

平成 7 年度	国庫補助事業名	史跡横須賀城跡史跡等活用特別事業
	総事業費	69,277,413 円
	内訳	
	本丸前復原整備工事	59,999,560 円
	工事監理業務	4,066,440 円
	発掘調査	5,189,903 円
	その他	21,510 円
平成 8 年度	国庫補助事業名	史跡横須賀城跡史跡等活用特別事業
	総事業費	69,855,260 円
	内訳	
	本丸前復原整備工事	59,966,600 円
	工事監理業務	4,300,000 円
	遺構写真測量業務	1,596,500 円
	発掘調査	3,970,650 円
	その他	21,510 円
平成 9 年度	国庫補助事業名	史跡横須賀城跡史跡等活用特別事業
	総事業費	104,265,912 円
	内訳	
	本丸前復原整備工事	88,000,000 円
	工事監理業務	4,824,750 円
	天守台等整備工事本設計	7,507,500 円
	遺構写真測量業務	456,750 円
	発掘調査	3,429,602 円
	その他	47,310 円
平成 10 年度	国庫補助事業名	史跡横須賀城跡史跡等活用特別事業
	総事業費	106,115,480 円
	内訳	
	天守台等復原整備工事	80,027,000 円
	野外模型制作設置工事	14,385,000 円
	工事監理業務	6,107,850 円
	報告書印刷製本	3,150,000 円
	発掘調査	2,271,150 円
	その他	174,480 円

第 4 節 発掘調査

整備に先立ち、基礎資料を得るための発掘調査を昭和 59 年度から進めている。その範囲は概ね本丸の西側から東へ向かって進められてきた。

今回の史跡等活用特別事業に係る発掘調査は、平成元年度の天守台の調査から開始された。特に平成 3 年度 4 年度の本丸前一帯の発掘調査では本丸前の高石垣、櫓門前の石垣や根石列が検出され、石垣復原の根拠資料となった。また、天守台の発掘調査では天守建物の礎石群や天守台周りの石垣等貴重な発見があり、天守建物の遺構表示や天守台周りの石垣整備など天守台整備の資料となった。この他三日月池周辺と天守台東下平坦面、天守台北法下の調査をおこない整備の資料とした。

発掘調査で検出された遺構は、遺構写真の撮影、実測・写真測量による遺構図作成等の記録をとり、作業と整備検討が終わった段階で地下に埋め戻し保存した。

なお、北の丸、松尾山の一部について今後の復原整備の資料を得るために調査に着手した。

発掘調査参加者

平成 5 年度

平成 6 年 1 月 17 日～平成 6 年 3 月 28 日

岡田賢一、杉山朝雄、金丸 清、鈴木春一、柴田五雄、鈴木藤市、進士高逸、進士三郎、鈴木吉雄、金丸久子、佐々木はるゑ、寺澤美恵子、加藤きぬ枝、宇佐美敏子、名倉わか、杉山てい、杉山みづ代、杉山 學、佐野いと、堀江つね、赤堀一江、小石川悟

平成 7 年度

平成 7 年 10 月 4 日～平成 8 年 3 月 27 日

金丸 清、佐藤 要、鈴木一郎、鈴木義郎、金丸久子、佐々木はるゑ、寺澤美恵子、柴田京子、加藤千穂子、中村嘉裕

平成 8 年度

平成 8 年 11 月 6 日～平成 9 年 3 月 26 日

金丸 清、佐藤 要、鈴木一郎、鈴木義郎、金丸久子、佐々木はるゑ、松本 幸、加藤千穂子、井上佐也佳、佐野いと、堀江つね、柴田京子、松本幸子

平成 9 年度

平成 9 年 11 月 6 日～平成 10 年 3 月 31 日

金丸 清、佐藤 要、鈴木一郎、鈴木義郎、柴田五雄、杉山 武、金丸久子、佐々木はるゑ、松本 幸、佐野いと、堀江つね、柴田京子、松本幸子

平成 10 年度

平成 10 年 11 月 20 日～平成 11 年 3 月 5 日

佐藤 要、鈴木一郎、松本 武、近藤健一、春田基行、杉山 円、柴田五雄、杉山 武、松本 幸、佐野いと、堀江つね、柴田京子

第5節 整備委員会

史跡等活用特別事業に係わる整備発掘調査の他、土地公有化事業等、横須賀城跡の整備に係わる全体について整備委員会の指導をいただいた。

横須賀城跡整備委員の構成は以下のとおりである。(平成10年度)

専門委員 (学識者)

斎藤 忠 (大正大学名誉教授)
高瀬 要一 (奈良国立文化財研究所)
服部 英雄 (九州大学大学院助教授)

地元委員 (横須賀城跡保存推進委員より5名) * 備考の整が整備委員

役職	委嘱根拠	氏名	備考
議長		大場辰雄	整
第1委員長		内藤澄夫	整
地元委員		松浦龍二	整
第12自治会長		戸塚正明	
松尾町総代		高間敏之	
小谷田総代		大塚裕四郎	
地主・地元		永田義逸	
〃		加藤達三	整
〃		戸塚久男	
教育委員長		清水興一	
文化財審議会長		山田喜三郎	整
文化財審議副会長		鈴木公司	
文化協会長		戸塚常雄	
郷土研究会長		桑原武	